

大地から小さな学校のおたより

ブラジル第三アリアンサ富山県日本語学校便り
NO4 11月号



11月に入って、暑くなってきました。しかし、村の人に聞くと、今年はそれほど暑くなっていないようです。雨が降ると、涼しくとても気持ちの良い気候です。

生徒の家で、マンゴー収穫のお手伝いをしました。長い竿の先には直径20cmくらいの網袋が付いていて、それでマンゴーを採ります。採ったマンゴーを箱詰めして集荷します。この季節は、一日500から800箱集荷するそうです。保護者の皆さんもいつも疲れた顔をしています。たまに子供達も疲れた顔をしているので、「昨日はマンゴーの箱詰めで忙しかったのだな」と思うことが何回かありました。

この花は何と言う花でしょうか。匂いをかいだら、私の好きなタイのラントムという花と同じ香りがしました。タイの花は白色ですが、こちらは黄色とピンクです。花、枝、そして葉の特徴までそっくりなので驚きました。先日、ロンドリーナという町に行った時は、タイと同じ、白色のものもありました。現地の人に名前を聞いたのですが「分からない」と言われました。



先月号では、蛍の紹介をしました。ブラジルにも蛍がいます。先日夜遅くまで学校で仕事をしていたら、たまたま、蛍が入りこんできました。雨が降った日などにはよく見受けられます。村の人がとってきた蛍を見せてもらったのですが、目が光っているものもありました。もしかすると、日本のお尻が光る蛍とは違うのかも知れません。

ピンポン大会がありました。

ピンポン大会は、毎年アリアンサ地区だけで行われています。年齢別に部門が3つあり、それぞれ男女別に大会が行われました。第3アリアンサ日本語学校では、毎授業、勉強が終わってから30分間練習してきました。上手になった生徒もいました。今年は第3アリアンサは、団体が2位でした。9歳以下の部で1位、12歳以下の部で3位になった生徒もいました。みんな楽しく参加していました。



夜学を始めました。

今年の夜学は、一般の人を対象に「絵手紙」から始めることにしました。日本人特有の「余白の美」について勉強しました。色の塗り方では淡彩画の技法を取り入れ、淡い色調の出し方も勉強しました。添える言葉は、「絵にあったもの」「俳句」「卒業生へのお手紙」のようにして、季節を意識した日本語、美しさや思いやりの伝わる

日本語表現を勉強してきました。夜学には9名が参加しました。みなさん、日本語が上手で、漢字もすらすら書けるので驚きました。できた作品は、今年の卒業式に展示します。



こんなことを勉強しています。



子どもたちは、日本語教育で言う「て形」の勉強をしました。「て形」と言われて、ピンときた人は、日本語教育に精通している人かも知れませんね。私は、アリアンサに来る前、東京外国語大学で日本語教育について研修を受けてきました。日本語の動詞の活用には、「て形」「ます形」「ば形」などがあります。初級日本語では、「て形」が一つの山となります。なぜなら、動詞の「ます形」を習ってからはじめての活用形で、活用法が様々あるからです。見ますは「見ています」。起きますは「起きています」。英語で言う現在進行形になりますね。その他「起きてから、見ています」という表現もできます

ね。日本語学校の子供たちは「飛んでいます」「うたっています」のように、「ん」や「っ」が入ることで混乱を生じてしまいます。写真には「てっさん」というペンギンのキャラクターが、ベッドで起きたり、寝たり、鉛筆を持って書いたり、ジュースをのんだりしています。私の授業では、なるべくポルトガル語を使わないようにしていますので、視覚的にわかりやすい教材を用意して、意味が分かるようにしています。

子どもたちは、「なっています」を勉強すると、不思議なもので、「ウーなっています」というように日本語のおのまどペ「えんえんとなっています」のような表現で、意味を伝えてくれるようになります。すると、「ぐーぐーとねっています」といった、豊かな表現ができるようになってきました。「てっさんは、ザブンと海に入って、およいでいます。そして魚をパクパク食べています。本もすらすら読んでいます。」そんな表現をすると、「せんせい、それない！（ペンギンは本を読むことができない）」という冷静な表現がすぐ返ってきました。すると「できる」「できない」の日本語の意味も理解できるようになりました。これだけの教材でいろいろなことができるのだと知り、日本語教育は奥が深いのだなーと実感しました。

サンパウロ自主研修に行ってきました。（とても涼しかったです。）



博物館、美術館などへ行ってきました。博物館ではブラジルの歴史を美術館では世界の巨匠の作品を見てきました。私は美術教師なので、サンパウロ美術館の収蔵品のレベルの高さに驚いてしまいました。モディリアーニ初期の作品やセザンヌ、ゴッホ、ピカソなど今までに見たことのない物ばかりでした。ビエンナーレ美術館では現代美術の展覧会があり、展示の面白さの他にスタッフの多さにも驚きました。その他、蛇の動物園とでも言うのでしょうか、蛇だけが展示されている所にも行きました。それらの場所に行って思ったことは、美術・博物館教育に随分力を入れている国だなーということです。展示の工夫がされており、見る人たちを飽きさせないようにしています。その他には国際交流基金にも行ってきました。ブラジルの日本語教育事情や教材について、いろいろ教えていただきました。スタッフのみなさん本当にありがとうございました。

富山県人会の忘年会にも行ってきました。県人会の本部はサンパウロにあります。県人会の方には一世の方もいらっしゃるので、いろいろなお話を聞くことができました。「今でも富山を思い出すなー。何回でも帰りたいなー」そんな言葉が、とても身にしみました。

とても実りの多い3日間でした。

挿絵「大地の日記～本当は白なのかも知れない～」2008年11月制作